

2008年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 面高度場では、東シベリア海と北欧に明瞭な正偏差、カナダ北部に負偏差が分布した。北欧の正偏差とカナダ北部の負偏差は、月の中頃にそれぞれブロッキング高気圧、比較的大規模なトラフが発達・持続したことに対応している。下旬には北欧のブロッキング高気圧から射出された準定常ロスビー波束の伝播により、オホーツク海でトラフ、ベーリング海峡付近でリッジが急速に発達した。またヨーロッパ南部から中央アジアにかけては、北欧のブロッキング高気圧の東方で対流圏下層の寒気移流により低温が顕著となった。なお、極東域では、上旬から中旬にかけてジェット気流の北偏が持続し、アムール河流域からカムチャツカ半島付近で高周波擾乱の活動が平年より活発だった。

熱帯の対流活動は、フィリピン付近およびインドネシア東部で活発だった一方、インド洋赤道域ではかなり不活発だった。北大西洋西部やメキシコ湾では、ハリケーンの発生・通過により対流活動が活発だった。対流圏下層では、北西太平洋で亜熱帯高気圧が平年より強く、西・中部太平洋赤道域では明瞭な東風偏差が見られた。赤道季節内振動 (MJO) に伴う対流活発な位相は、9月前半にインド洋からインドネシアへと東進した。その際、アジアモンスーン域における対流

活動の活発化と活発域の北進が明瞭に見られた。MJOに伴う対流活発な位相の東進は9月後半に一時的に不明瞭となったが、その後は西部太平洋から西半球へと東進した。

南方振動指数 (SOI) は+1.2となった。

世界の天候

2008年9月の世界の月平均地上気温平年差は、+0.26°Cで、1891年の統計開始以来、9番目に高い値となった。

○中国南部や中東からアフリカ北部で異常高温となった。

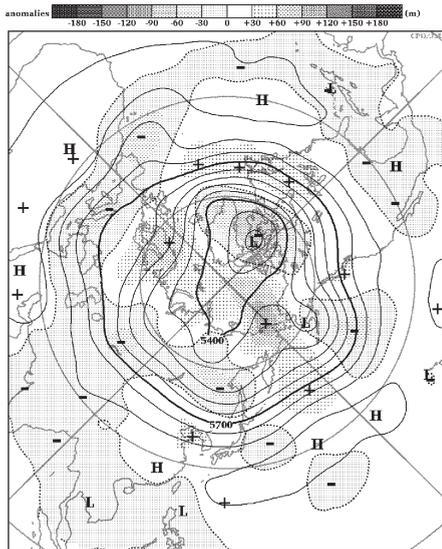
○地中海東部から南部周辺では低気圧や前線の活動が平年より活発で異常多雨となった。

○カリブ海諸国や米国では、ハリケーン「ハンナ」、「アイク」により合わせて200人以上の死者を含む被害が報じられた (外務省プレスリリース、アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁 (FEMA) による)。

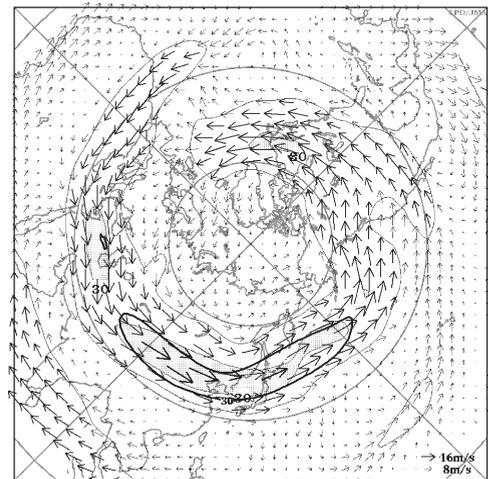
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

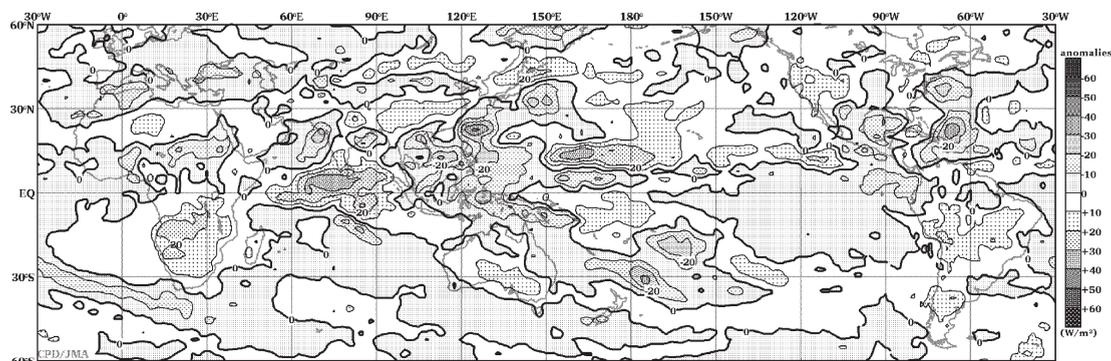


2008年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1979~2004年のデータから作成。

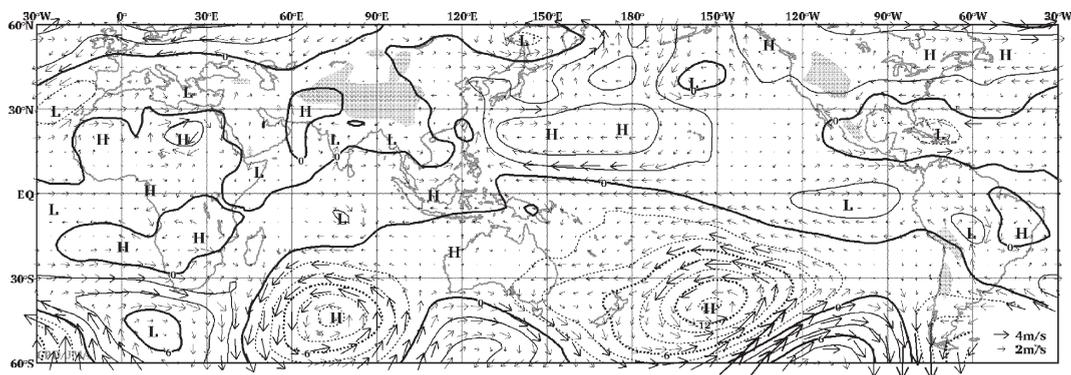


2008年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

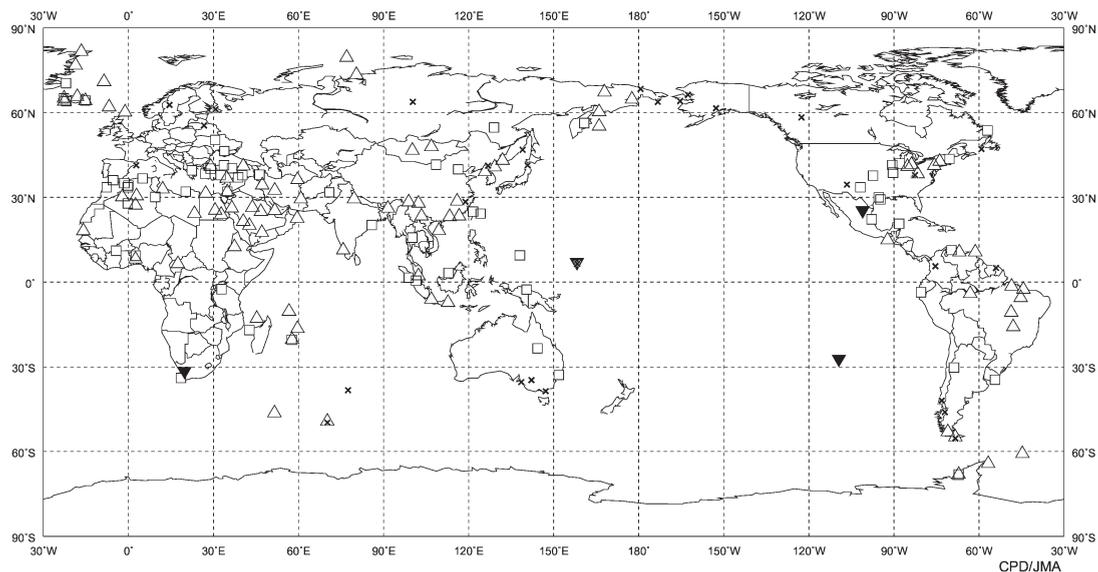
等値線間隔は15 m/s。陰影部は30 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2008年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年9月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。